

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4074400286
法人名	有限会社 オプティマムケア
事業所名	グループホーム朝茶
所在地	福岡県糟屋郡粕屋町大字長者原639-1 (電話) 092-939-3454

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 9月 7日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造耐火建築 造り
	2階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(180,000円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.4歳	最低	72歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくらクリニック、福岡青州会病院、蓮田歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福岡市郊外で周辺に畑の残る静かな住宅地の一角にある事業所である。協力クリニックが隣接し、医療面での安心に繋がっている。二階建ての一階部分が事業所で、二階部分が併設のデイサービスになっている。法人の名称が「オプティマムケア」で最適最善のケアを目標に毎日の認知症高齢者の生活を地域で支え、認知症があってもその人らしく生活できる「家」を目指している。1ユニット9人で、大変家庭的な雰囲気のある事業所である。ホームページが公開されており、事業所の様子を見ることができる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題については、改善計画シートを作成し、運営理念の明示や啓発、介護計画の職員間での共有等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者・管理者・計画作成担当者は自己評価及び外部評価の意義を理解し取り組んでいるが、職員一人ひとりにもその意義を理解してほしい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催している。利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、委員からの意見、要望等ももらっている。委員の意見で地域行事に参加する等、サービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>家族会があり、家族からの要望・苦情を表せる機会を確保している。苦情窓口は契約時に説明し、外部機関の苦情窓口も玄関に掲示して説明している。利用者・家族からの苦情・意見に対しては職員間で検討し、対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入し、夏祭り・敬老会等に参加している。専門学校生のボランティアや実習生を受入れている。地域の幼稚園とも遊戯会等を通じて交流がある。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念があり、「地域との絆を深め…」とあり、地域密着型サービスの視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼で勤務の職員全員で理念の唱和をしている。理念の共有化・実践に向けて言葉かけ、心がけ、報告などに日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、夏祭り・敬老会等に参加している。専門学校生のボランティアや実習生を受入れている。地域の幼稚園とも遊戯会等を通じて交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、運営者・管理者・計画作成担当者が中心に取り組み、職員に対してはミーティングで話し合っている。前回評価での改善課題については、改善計画シートを作成し、運営理念の明示や啓発、介護計画の職員間での共有等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	○	運営者・管理者・計画作成担当者は自己評価及び外部評価の意義を理解し取り組んでいるが、職員一人ひとりにもその意義を理解してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、委員からの意見、要望等をもらっている。委員の意見で地域行事に参加する等、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政に事業所便りを持参し、事業所の実情等の報告を行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については家族会で説明を行っている。パンフレット等を準備し、内部研修を行っている。	○	地域権利擁護事業についても研修の機会を持ち、利用者や家族への情報提供ができるよう、全職員の制度への理解を深めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月に1回、事業所便りを発行している。家族等の来訪時には、暮らしぶりや健康状態等を報告し、来訪頻度に応じて、月1回、手紙で健康状態等を報告している。金銭管理については、家族来訪時に金銭出納帳を確認してもらい、署名ももらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、家族からの要望・苦情を表せる機会を確保している。苦情窓口は契約時に説明し、外部機関の苦情窓口も玄関に掲示して説明している。利用者・家族からの苦情・意見に対しては職員間で検討し、対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に対しては、待遇等で努力をしている。退職で職員の交代が発生する時は引き継ぎ期間を十分に取り、利用者への影響を最小限にするよう努力している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 採用基準は「熱意」である。定年後も働く意欲のある人は、継続して就労可能である。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関するテキスト・パンフレット等はあるが、内部または外部研修への取り組みはない。</p>	○	<p>内部または外部研修への参加の機会を設けて、人権教育を実施してほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の機会は確保し、情報も提供している。研修報告はミーティングで行い、研修報告書は職員がいつでも閲覧できるようファイルしている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会に加入している。地域の研修やブロック研修に参加し、地域の他事業所との交流や職員の相互訪問を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に自宅・病院等を訪問し、十分なアセスメントを行っている。また、職員に情報提供して話し合い、利用前に見学を実施する等、本人や家族が納得の上でサービスを開始するよう努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と共に庭の畑の収穫・洗濯物干し・後片付け等、行っている。また、職員は人生の先輩である利用者に、場面場面で助言を求めたりして、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の活動・言動を通して利用者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通の難しい利用者は、生活歴・家族の話・本人の様子を通して本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のミーティングや朝礼で職員の意見を集約し、家族の意見等を反映しながら、一人ひとりの状態に合わせた介護計画を作成している。作成後は必ず確認をして家族から押印してもらっている。</p>	○	<p>介護計画は、利用者本人の意見等も反映するように取り組んでほしい。</p>
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。急な状態変化時は家族に連絡して了解を得て、介護計画の見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院は、基本的に家族同行だが、状況に応じて職員が代行している。利用者が入院した時は家族に付き添って医療機関に情報提供し、家族や病院と連携を図って早期退院に向けて支援している。退院時は職員が出向き、退院後の支援について医師から話を聞くようにしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医での受診及び事業所の協力医での受診を支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針がある。入居時及び家族会で、方針について家族等へ説明し、職員や医療機関を含めて、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対して、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。また、日常的に、ミーティングや朝礼で意識化を図っている。記録の記入時には、プライバシーに留意しながら記述している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の希望等を聴きながら、毎日の暮らしを支援している。利用者一人ひとりの希望を聴きながら、利用者の状態や思いを配慮して支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に準備や片付けをしている。	○	利用者と職員が共に暮らす視点から、同じテーブルで同じ物を食べ、一緒に味わいながら、家庭的な雰囲気共有してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、いつでも入浴出来るよう支援している。入浴拒否については、気分の良い時やタイミングを図る等して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の出来る事や得意な事を把握している。料理の下準備や裁縫、散歩等、生活歴や力を活かした役割、楽しみごと等、一人ひとり支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調、希望を考慮して、ほぼ毎日散歩をしている。2ヶ月に1回、ドライブし、また、季節の花を觀賞したり買い物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関と居間から庭に出る引き戸は、普段施錠していない。網戸は音で出入りを確認できる仕組みになっている。事務室から玄関が見通せ、見守り体制もできている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画書があり、年2回、避難訓練を行っている。	○	避難訓練は、地域住民や消防署の協力を得て、実施してほしい。また非常食や備品の準備を行ってほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量及び水分摂取量の記録が、全利用者分ある。献立は、利用者の嗜好を考慮し、おやつに反映したり、季節のものを活かして作成している。	○	最低年1回は、栄養士等による専門的アドバイスやチェックを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は木のぬくもりが感じられる引き戸で、共用空間には利用者の作品を飾る等し、家庭的雰囲気に配慮している。昼食時はBGMが流れているが、不快と感じられる音や光はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は馴染みの家具や思い出の品物等を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫や配慮がある。		

※ は、重点項目。